

匠の技を現場に！

峡南地域普及センター

山梨県では、栽培環境のデータ測定や生育状況の画像解析により、果樹や野菜の高品質・多収要因を見える化する「データ農業」の技術を新たに開発・普及する取り組みを令和3年度より開始しました。データ農業とは、IoT 技術を活用することで、これまでデータ化が困難だった生育環境や栽培に関する情報を電子データとして蓄積していきます。このデータを分析することで、生産性の飛躍的な向上や高品質化の要因を明らかにするといった、データを経営に活用する農業です。

本県の主力野菜である露地なすについては、令和4年から3年間、篤農家の圃場でデータ取り等を行い、取りまとめ、資料化した上で、令和7年度より現場への普及を始めています。

こうした中、峡南管内のなすの主力産地である市川三郷町大塚地区において、データ農業の技術を普及すべく、去る7月17日に栽培講習会を開催しました。農業技術課やJAと連携し開催の周知を行ったところ、当日は、多くの生産者、特に若手の生産者が数多く参加しました。

まず、農業技術課より疎植栽培や側枝更新剪定など匠の技について、作成したマニュアルにより説明後、農務事務所から、側枝更新剪定について圃場で実際に実演しながら説明を行いました。参加者は若手が多い中、食い入るように聴講するとともに、多くの質疑応答が交わされ、盛況な講習会となりました。

今後も、スイートコーンなど管内の主力品目について、蓄積したデータを取りまとめ、講習会等を通じて匠の技を幅広く普及し、地域農業の維持、発展に貢献して参ります。



匠の技の紹介



熱心に聞き入る参加者